

しがの(農) × (福) 通信

令和4年(2022年)9月第18号

発行者：滋賀県農政水産部みらいの農業振興課

7月13日に、農業者と福祉事業者の相互理解を深める目的で、講師をお招きして勉強会を開催しました。今回はその内容をご紹介します。

「しがの農×福ネットワーク」勉強会 ～農業と福祉の相互理解を深める～

今回講師としてご講演いただいたのは、愛知県犬山市で株式会社ココトモファーム（以下、ココトモファーム）を経営されている齋藤秀一さんです。齋藤さんはもともとIT企業を経営されていましたが、ご自身が発達障害で苦労された経験をお持ちであることから、発達障害のある子どものための児童発達支援・放課後等デイサービスの運営も手掛けるようになりました。その中で、子どもたちが成長してから働く場所がないことに問題意識を持たれ、障害者の方に働く場を提供するため、農福連携に取り組むココトモファームを設立されました。



株式会社ココトモファーム
代表取締役 齋藤秀一さん

現在、ココトモファームでは、約8haでお米を栽培するとともに、一部を米粉に加工し、バウムクーヘンを製造・販売されており、愛知県内に9店舗を展開されています。

● 農福連携に取り組んだ当初の課題

ココトモファームでは、当初、農業のみに取り組まれ、その中で様々な課題に直面されたそうです。まず課題として直面したのは、障害のない従業員の方の負担です。農作物の栽培をしつつ、並行して障害のある従業員の方の支援も行うことは、障害のない従業員にとって負担が大きく不満が上がったそうです。また、労力をかけて農作物を栽培しても、収益が上がらず、採算が合わないことも課題でした。さらに、将来的に農業で働きたいと考える障害者の方が少ないということにも、取組を始めてから気づかれたそうです。

● 「工業」と「商業」で、「農業」と「福祉」をつなげる

多くの課題に直面し、農業と福祉のみを直接結び付けるのは難しいと感じた齋藤さんは、間に工業と商業を入れてはどうかと考え、試行錯誤を始められました。そして、水稻を栽培 ⇒ 米粉へ加工 ⇒ バウムクーヘンを製造 ⇒ 販売というように、農業と福祉の間に工業と商業を入れて6次産業化を進めたことで、様々な課題を解決し農業と福祉をつなげることに成功



されました。例えば、農業の閑散期である冬場は、逆にバウムクーヘンづくりの繁忙期であり、社内で業務量の平準化を図ることができました。また、収穫したお米をバウムクーヘンに加工し、付加価値を付けて販売することで収益性の向上に繋がったそうです。

● 誰もが居場所を見つけられる職場づくり

さらに、農業に加え工業、商業と様々な分野の取組を行うことで、一人ひとりの特性に合わせた仕事を提供することができるようになりました。ココトモファームでは、農業に向いていない方は、販売やバウムクーヘンの製造など農業と異なる分野に挑戦することができます。一般に、障害のある方は職場で苦手な分野に対応できず、転職を繰り返し、自信を失われることも多いそうです。ココトモファームでは仕事の選択肢を増やすことで、誰もが特性に合った仕事を見つけ、継続して働き、自信を持ってもらうことを目指されています。



● 障害は治せないが生きづらさはなくせる

齋藤さんは、ご自身の経験も踏まえ「障害は生まれつきの特性のため、治すことはできない。でも、苦手なことを補うことができれば『生きづらさを無くす』ことができる」と考えておられます。声を出すことができなければコミュニケーションの方法を筆談に変える、こだわりが強いけれど規則正しい作業が得意な方には製造を担当してもらうなど、工夫や特性を生かした仕事の分担で生きづらさを無くし、働きやすい職場づくりに取り組まれています。また、時給等の面でも、障害の有無にかかわらず同じ待遇とされているそうです。

齋藤さんは、「生産性を求めすぎると、農福連携は続かない。真摯に取り組む姿勢や明るさ、アートの才能など、ぜひ一人ひとりの素敵なおところを見つけしてほしい。障害のある従業員の方が障害を抱えながらも一生懸命働く姿は、障害のない従業員の方のモチベーションにも良い影響を与えてくれます。」と仰っていました。



ココトモファームのロゴマークには「いろいろな色
いろいろな大きさ いろいろなカタチ 人と違うことは素晴らしい 違うからこそお互いを支え合える」とのメッセージが込められています。

● 今後について

齋藤さんは、今後、犬山市に農業を学ぶ就労移行支援事業所（ココトモカレッジ）を開設する構想を持たれています。施設外就労による作業の提供や就農者の確保、児童発達支援・放課後等デイサービスとの連携による食育や農業体験、空き家の活用等、農福連携による過疎地域が抱える問題の解決、地域の活性化を目指されています。



<参加者の皆さんからの感想>

- ・ 障害の有無に関係なく、誰もが居場所があることが大切だと実感しました。
- ・ 齋藤先生自身が、生き立ちも含めて、プライバシーをさらけ出しながら、どのように変化し、今の自分や事業があるかを解りやすく話していただいたことが素晴らしかったです。

講演終了後、班に分かれての意見交換を行いました。今回はオンラインと併用しての開催で、現地での参加は少数でしたが、講演への感想やそれぞれの取組の紹介など、話題は尽きず、勉強会終了後も、参加者同

士で積極的に情報交換をされていました。コロナ禍で対面での交流が難しい状況が続いていますが、今後も、開催方法を工夫しながら、新たなつながりが生まれるような取組を実施していきたいと思ひます。

講師関連情報

■事業所概要

株式会社 ココトモファーム

本社所在地

〒484-0076 愛知県犬山市橋爪石畑 60 番地 2

TEL:0568-54-4717

FAX:0568-54-4718

HP : <https://www.cocotomo-farm.jp/>



ココトモファーム犬山城三之丸店

■齋藤秀一さんのご著書

「発達障害でIT社長の僕」(幻冬舎)

今回の勉強会でご講演いただいた齋藤さんご自身の経験や、農福連携に関する取組について、詳しく書かれています。



「しがの農×福ネットワーク」に御賛同いただける個人・団体等を募集しています！

「しがの農×福ネットワーク」は、「農福連携」に関心のある個人、グループ、民間団体、企業、大学、研究機関、行政機関などが、それぞれが持つ農福連携に関する情報の発信や啓発、意見交換などを行うことにより、滋賀の農福連携の取組を推進するネットワークです。

御賛同いただける場合は、下記の県 HP 掲載の参加申込書に必要事項を記入いただき、E-mail、FAXまたは郵送にてみらいの農業振興課まで送付ください。多くのみなさまの御参加をお待ちしております。

[「しがの農×福ネットワーク」](#) 滋賀県ホームページ(滋賀県HPへリンク)

URL: <http://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/shigotosangyou/nougyou/seisangizyutsu/304789.html>

問合せ先一覧

○農福連携全般・農業技術に関すること	滋賀県農政水産部みらいの農業振興課	TEL:077-528-3830
○障害福祉の制度に関すること	滋賀県健康医療福祉部障害福祉課	TEL:077-528-3542
○障害者雇用に関すること	滋賀県商工観光労働部労働雇用政策課	TEL:077-528-3767
○子ども食堂に関すること	滋賀県健康医療福祉部子ども・青少年局	TEL:077-528-3550
○施設整備等の補助金に関すること	近畿農政局農村振興部農村計画課	TEL:075-414-9051
○農作業受委託のマッチングに関すること	NPO 法人滋賀県社会就労事業振興センター	TEL:077-566-8266

発行：滋賀県農政水産部みらいの農業振興課 〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目1-1

TEL:077-528-3830 E-mail:noufuku@pref.shiga.lg.jp